



にゅーすれたーふじやま・長泉



芸術の秋を楽しみましょう！

2018. 10

パナソニックエイジフリーショッフ

10月に入り、嬉しいニュースが飛び込んできました。2018年の「ノーベル医学・生理学賞」が京都大学高等研究院の本庶祐(ほんじょ・たすく)特別教授(76)とアメリカのジェームズ・アリソン教授に授与されると発表されました。本庶教授は免疫の働きにブレーキをかけるたんぱく質「PD-1」を発見し、このブレーキを取り除くことでがん細胞を攻撃する新しいタイプの「がん免疫療法」の開発に結び付けた功績が評価されました。日本からの受賞は2年ぶり26人目です。授賞式は12月10日にストックホルムで行われます。賞金は900スウェーデン・クローナ(日本円で約1億1500万円)。

本庶教授の20年に及ぶ研究を支えたのは、「未知の現象に対する好奇心と実用化への執念」だとおっしゃっています。当時の医学界では、人の免疫力を強めてがんを治療しようと、さまざまな方法が試されていましたが、どれも十分な効果が得られませんでした。しかし、教授は諦めなかったそうです。「病気に役立つ研究がしたい」。その思いから、がんの新たな治療薬を目指す実験を開始します。この遺伝子を欠損させたマウスにがんを移植したところ、ブレーキが外れたことで、免疫力が強まり、がんの増殖が遅れることがわかったそうです。本庶教授はアメリカのベンチャー企業や小野薬品などとの協同開発で、ついに「オプジーボ」という薬を開発しました。教授は「極めて基礎的な研究が新しい免疫療法となった。この治療法によって重い病気から回復して『あなたのおかげだ』と言われることがあれば、自分の研究の意味があったと実感する」とインタビューに答えるとともに「この免疫療法が、多くのがん患者を救うことになるよう、もうしばらく研究を続けたい」と述べました。

渡邊啓視



鬼太鼓座による
奉納太鼓です。
入場無料・雨天中止

鬼太鼓座

ondekoza

鬼の響き～岳麓より奏でる～

2018年11月3日(土) 13:30～15:00



津軽三味線奏者 牧野太紀

書家 大村華谷・CHEERS FACTORY



富知六所 (三日市) 浅間神社